

高額医療・高額介護合算制度対応

保険者－国保連合会システム間等

インタフェース仕様書

共通編

平成 21年 4月

目次

1 インタフェース規定	1
1.1 インタフェース方式概要	1
1.1.1 概要.....	1
1.1.2 データ交換の種類	4
1.2 インタフェース仕様	4
1.2.1 交換情報の仕様.....	4
1.2.2 磁気媒体作成上の留意事項.....	10
1.3 表記法.....	10
1.3.1 項目説明の表記について	10
1.4 留意事項	12
1.4.1 項目設定共通事項	12

1 インタフェース規定

本節では、高額医療・高額介護合算制度に対応するための国保連合会システムと国保・介護保険者とのインタフェースの一般的な規定について述べる。

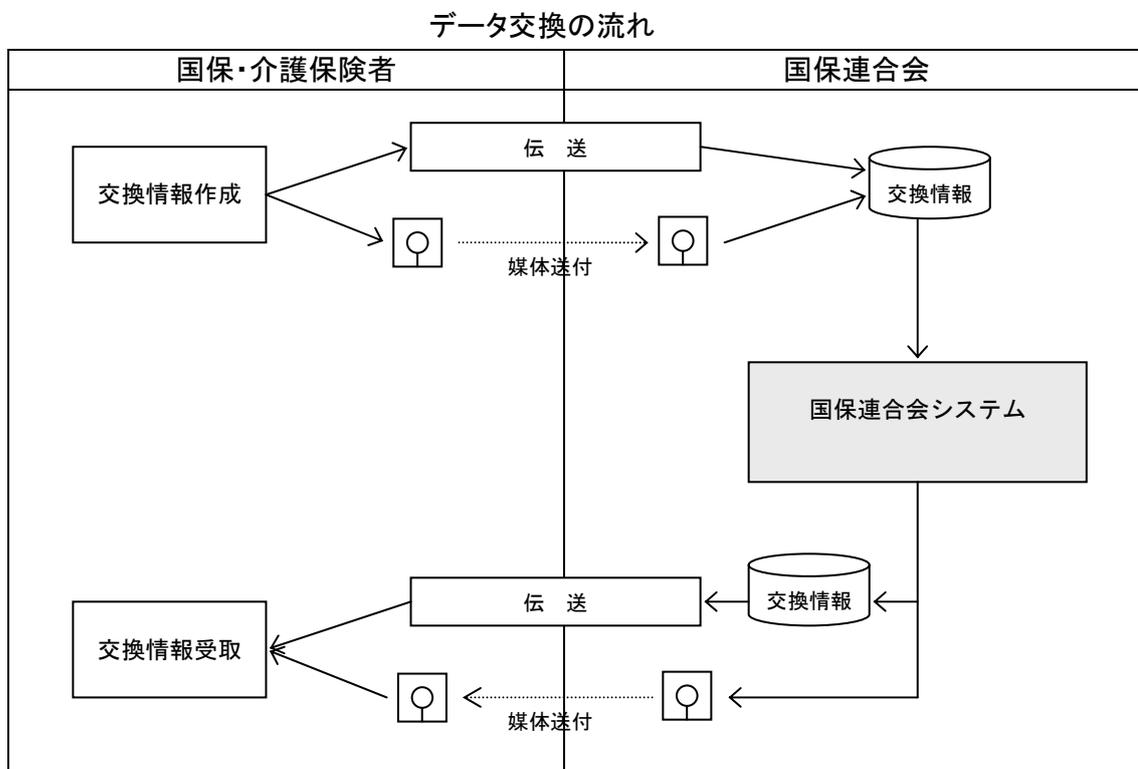
1. 1 インタフェース方式概要

1. 1. 1 概要

国保・介護保険者が作成した交換情報は、伝送または磁気媒体を介して国保連合会に送付される。国保連合会では、受領した交換情報を国保連合会システム内に読み込み、各業務処理を実行する。

また、国保連合会システムが作成した交換情報は、伝送または磁気媒体を介して医療・介護保険者に送付される。

(1) データ交換の流れ



伝送でのデータ交換については、以下のいずれかの方式で行う。

- ①介護保険者・国保連合会介護システム間でのISDN回線・伝送ユーザID・伝送接続用パスワードを用いてのデータ交換
- ②市町村・国保連合会障害者自立支援システム間でのISDN回線・伝送ユーザID・伝送接続用パスワードを用いてのデータ交換(国保保険者分のみ)

伝送に関する規定については、「伝送システム仕様書」を参照すること。

資料掲載URL

http://www.kokuho.or.jp/kaigosystem/lib/DENSO_200804_8ji.pdf

(2) 受付方法

国保連合会での交換情報(磁気媒体)の受付は次の方法にて行われる。

① 交換情報の受理

国保・介護保険者より提出される交換情報を格納した磁気媒体及び「送付票」を受理する。

② 送付票と媒体の確認

「送付票」に記載された媒体数と受理した磁気媒体の数を確認する。

③ 送付票への受付印の押印

「送付票」の受付印欄に受付印を押印する。

④ 交換情報のフォーマット変換

国保連合会システムにより交換情報のフォーマット変換を行う。

媒体エラーまたはフォーマットエラーの場合、国保・介護保険者へ交換情報の再作成依頼を行う。

(3) 送付方法

国保連合会での交換情報(磁気媒体)の送付は次の方法にて行われる。

① 送付票出力

「送付票」を出力する。

② 帳票枚数確認

「送付票」に記載された各種帳票の総枚数と送付する帳票の総枚数を確認する。

③ 磁気媒体数確認

「送付票」に記載された磁気媒体の総数と送付する磁気媒体の総数を確認する。

④ 発送

各種帳票及び磁気媒体を介護保険者等別に仕訳し、各々「送付票」に記載された帳票・磁気媒体の数と送付する帳票・磁気媒体の数を確認、決済を受け、国保・介護保険者へ送付する。

(4) エラー処理

国保・介護保険者から国保連合会へのデータ交換において、交換情報にエラーが検出される場合として、次のようなものが考えられる。

・媒体エラー

磁気媒体そのものの不良により、交換情報の読みとりに失敗した場合。

・データフォーマットエラー

ファイルフォーマット、レコードフォーマットの不具合により、交換情報のフォーマット変換時にエラーが検出された場合。

・データ内容エラー

データ内容の不具合により、交換情報のフォーマット変換終了後、業務処理内でエラーが検出された場合。

媒体エラー、データフォーマットエラー及びデータ内容エラーが検出された場合、次のような流れに従いこれを処置する。

③ データ内容エラー

データ内容の不具合によるエラーが検出された場合は、交換情報のエラーとして、その旨を保険者等に連絡し、エラーリストを返却して交換情報の再作成・再送付を依頼する。

1. 1. 2 データ交換の種類

国保・介護保険者と国保連合会との間で、交換情報の授受を実現するためのデータ交換方式は次の通りである。

- ・伝送によるデータ交換
- ・MO(光磁気ディスク)及びフロッピーディスクによるデータ交換

1. 2 インタフェース仕様

1. 2. 1 交換情報の仕様

(1) 媒体仕様

① 伝送

使用回線サービス	ISDN(デジタル回線)
通信プロトコル	TCP/IP
データ形式	改行付き、MS-DOS テキスト形式
ファイル名	交換情報識別番号の上3桁と、半角英数字5桁の任意の文字列に拡張子として".CSV"を付加したもの
文字コード	シフトJISコード

② MO及びフロッピーディスク

・MO

媒体	230MB、640MB MO
媒体フォーマット	MS-DOSフォーマット
データ形式	改行付き、MS-DOS テキスト形式
ボリューム形式	シングルファイルボリューム マルチファイルボリューム ※マルチボリュームファイルは不可
ファイル名	交換情報識別番号の上3桁と、半角英数字5桁の任意の文字列に拡張子として".CSV"を付加したもの
文字コード	シフトJISコード

・フロッピーディスク

媒体	3.5インチFD(1.44MB)
媒体フォーマット	MS-DOSフォーマット
データ形式	改行付き、MS-DOSテキスト形式
ボリューム形式	シングルファイルボリューム マルチファイルボリューム ※マルチボリュームファイルは不可
ファイル名	交換情報識別番号の上3桁と、半角英数字5桁の任意の文字列に拡張子として”.CSV”を付加したもの
文字コード	シフトJISコード

シフトJISコードについては「(4)文字コード(P.9)」を参照のこと。

交換情報のファイル名については、以下の形式とする。

・国保・介護保険者から国保連合会へ受け渡す交換情報の場合

交換情報識別番号上3桁と、半角英数字5桁の任意の文字列に、拡張子として”.CSV”を付加したものとする。

例：37100001.CSV（支給申請書兼自己負担額証明書交付申請書情報の場合）

・国保連合会から国保・介護保険者へ受け渡す交換情報の場合

交換情報識別番号上3桁と、”00000”から始まる数字5桁の通番(注1)からなる8桁の文字列に、拡張子として”.CSV”を付加したものとする。

例：37L00000.CSV（自己負担額確認情報の場合）

注1：一回の操作にて複数データを出力する場合、”00000”～”99999”の連番が自動的に採番される。

(2) ファイルフォーマット

①国保保険者、国保連合会国保システム間

交換情報ごとに、CSV形式でデータを設定する。

設定する内容は、データレイアウト編を参照すること。

②介護保険者、国保連合会介護システム間

以下の3種類のレコードから構成される。

・コントロールレコード

ファイルの先頭(第一レコード)に作成し、交換情報の識別、レコード件数、送付元等の制御情報を設定する。

・データレコード

ファイルの第二レコード以降に作成し、交換情報のデータを設定する。

・エンドレコード

ファイルの最終レコードとして作成し、交換情報の終端を表す。

コントロールレコード	}	ファイルの第一レコード
データレコード		
.....	}	ファイルの第二レコード以降のレコード
データレコード		
エンドレコード		
	}	ファイルの最終レコード

交換情報のファイルは、1つのボリューム(媒体)に閉じて、シングルファイルボリュームまたはマルチファイルボリュームとして作成する。

- (3) コントロールレコード、データレコード、エンドレコードフォーマット
各レコードはCSV形式で作成する。

・コントロールレコードフォーマット

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	レコード種別	数字	1	コントロールレコードを示す1を設定
2	レコード番号(連番)	数字	9	ファイル内の先頭レコードからの連番(1から始まる通番)を設定
3	ボリューム通番	数字	3	0を設定
4	レコード件数	数字	9	データレコードの件数を設定(コントロールレコードおよびエンドレコードの件数は加算しない)
5	データ種別	英数	3	交換情報識別番号の先頭3バイトを設定 データレイアウト編の「交換情報識別番号一覧」を参照
6	福祉事務所特定番号	数字	2	0を設定
7	保険者番号	英数	6	介護保険者番号を設定
8	事業所番号	数字	10	0を設定
9	都道府県番号	数字	2	0を設定
10	媒体区分	英数	1	1:伝送、2:MO、4:FD
11	処理対象年月	数字	6	データの処理対象年月を設定する(注1) (例)2009年10月の場合、200910を設定する
12	ファイル管理番号	数字	6	0を設定
13	blank	英数	2	改行(16進コード…0x0D0A)を設定

・データレコードフォーマット

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	レコード種別	数字	1	データレコードを示す2を設定
2	レコード番号(連番)	数字	9	ファイル内の先頭レコードからの連番(1から始まる通番)を設定
3	データ			交換情報ごとに、CSV形式でデータを設定 設定する内容は、データレイアウト編を参照
4	blank	英数	2	改行(16進コード…0x0D0A)を設定

・エンドレコードフォーマット

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	レコード種別	数字	1	エンドレコードを示す3を設定
2	レコード番号(連番)	数字	9	ファイル内の先頭レコードからの連番(1から始まる通番)を設定
3	blank	英数	2	改行(16進コード…0x0D0A)を設定

(データ設定例)

伝送での情報交換、データレコード件数=123、データ種別=999、保険者番号=111111、処理対象年月=2009年10月の場合のデータ設定例を示す。

・コントロールレコード設定例

位置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
設定値	1	,	1	,	0	,	1	2	3	,	9	9	9	,	0	,	1	1	1	1	1	1	,	0	,	0	,	1	,	2	0	0	9	1	0	,	0			改行 コード

・データレコード(2レコード目)設定例

位置	1	2	3	4
設定値	2	,	2	,	...データを設定...															改行 コード

・エンドレコード(125レコード目)設定例

位置	1	2	3	4	5	6	7
設定値	3	,	1	2	5		改行 コード

注1: 処理対象年月について

以下にコントロールレコードの処理対象年月の設定内容について記載する。

① 保険者から国保連合会へ受け渡す交換情報の場合

国保連合会で処理を実行する際の対象年月を設定する。

例: 2010年10月処理分の支給申請書兼自己負担額証明書交付申請書情報を2010年10月に国保連合会に提出する場合は、"201010"を設定する。

② 国保連合会から保険者へ受け渡す交換情報の場合

国保連合会で処理を実行した際の対象年月が設定される。

例: 2010年10月処理分の結果情報を2010年11月に保険者に提出する場合は、"201010"を設定する。

(4) 文字コード

① シフトJISコード

シフトJISコードは、日本工業規格(JIS X0208:1997 附属書1)で規定されているが、国保連合会システムでは Windows標準で使用されているコード体系(JIS X0208 の漢字文字集合を未使用領域にシフトさせたコード体系)で通常に使用できる文字を使用する。

ただし、以下の文字は使用不可とする。

・使用不可能文字

項番	使用不可能文字	文字コード(16進表記)
1	'(シングルコーテーション)	27

② 外字

交換情報の被保険者等名及び住所の項目に外字が含まれる場合は、外字部分の文字コードをシフトJISの外字コードに変換して格納する。

ただし、国保連合会システムでは全ての外字を取り扱い対象外とするため、当該データが印字対象となる場合はこれをスペースに置き換えて印字し、「外字空白印字リスト」によりこの処置を通知する。

したがって、国保連合会システムで外字を印字する場合は、保険者と国保連合会との間で外字コードの取り扱いについての調整が必要となる。

※外字コード

シフトJISコード上での外字コード領域には、16進コード…0xF040～0xF9FCの範囲で2バイト目が16進コード…0x40～0x7E及び0x80～0xFCの1880文字が割り当てられている。

(5) 特記事項

CSV 形式ファイル

- ・各レコードは可変長レコードとし、レコードの終わりには「改行コード(16進…0x0DOA)」を設定する。
- ・各項目間には区切り(セパレータ)として「カンマ(16進コード…0x2C)」を設定する。
- ・英数属性、数字属性および漢字属性の項目はデータの両側を「ダブルコーテーション(16進コード…0x22)」で囲む。ただし、各項目の内容に「カンマ」、「ダブルコーテーション」、「スペース(16進コード…0x20)」および漢字(2バイトコード)を含まない場合は、データの両側の「ダブルコーテーション」を省略することができる。
- ・英数属性の項目の内容に「ダブルコーテーション」を含む場合は、2つの「ダブルコーテーション」を連続して設定する。(1文字の「ダブルコーテーション」として扱われる。)
- ・数字属性の項目の内容がゼロの場合は、「ゼロ(16進コード…0x30)」を設定する。
- ・各レコードには「改行コード」および漢字(2バイトコード)を除き、16進コード…0x00～0x1Fの文字を使用しない。
- ・項目の入力を省略する場合は、データを省略して「カンマ」を連続させる。
- ・全ての桁に意味のある項目の場合は、内容に含まれるスペース、ゼロ等を省略しない。

1. 2. 2 磁気媒体作成上の留意事項

(1) 全般

- ・磁気媒体上のファイル名については、国保連合会システムではチェックの対象外。ただし、原則として同一月の交換情報として同一ファイル名は使用せず、送付元で識別できる名称とする。
- ・同一保険者から異なる様式の情報を同時期に提出する場合は、1枚の磁気媒体に混在させることも可能とする。

(2) MO及びフロッピーディスク

- ・媒体エラー及びデータフォーマットエラーが通知された場合は、データの再作成、再送付を行う。

1. 3 表記法

1. 3. 1 項目説明の表記について

(1) 項目説明の内容

交換情報のデータレコードに「データ」として設定する項目の内容を表す。

① 項番

- ・項目の連番。

CSV形式で交換情報を作成する場合は、この単位でデータの区切り(カンマ)を設定することを表す。

② 項目名

- ・項目名を表す。

③ 属性

- ・特に記載が無い限り、以下の形式でデータを設定することを表す。

英数 : 半角の英字、数字、カナ文字1文字をそれぞれ1バイトで表す。半角の英小文字は使用できない。漢字(2バイトコード)を混在させない。

数字 : 0, 1, 2, ~, 9の数字1桁をそれぞれ1バイトで表す。マイナスの数値の場合は左側に半角のマイナス(“-“)を付加する。

※1 マイナス数値については、左側に半角の(“-“)を付加する。

ただし、この場合の“-“を含む設定値の桁数は、各交換情報の項目説明に示す項目長を超えてはならない。

例: マイナス10は「-10」で表現する。

※2 プラス数値およびゼロ値については、左側には何も付けない。

例: プラス10は「10」で表現する。

※3 数字属性の項目にゼロが設定されているとき、特に断りがない場合は、

マイナス値を取り得る項目については数値ゼロが入力されているものと見なし、マイナス値をとり得ない項目については値の入力が省略されているものと見なす。

例:

項目名	入力値
日数	0(数値ゼロ)
金額	0(数値ゼロ)
年月日	省略
区分	省略
番号	省略

また、設定値の全桁が”0”であるときは、その設定長に関わらず上記入力値の判定に従う。

例：項目長=6バイトの「金額」項目については、以下の設定値は全て数値ゼロが設定されているものと見なす。

“0”、“000”、“000000”

項目長=6バイトの「年月」項目については、以下の設定値は全て入力が省略されているものと見なす。

“0”、“000”、“000000”

漢字： 漢字1文字をそれぞれ2バイトで表す。

半角の英字、数字、カナ文字(1バイトコード)を混在させない。

④ バイト数

- ・設定するデータの長さをバイト数で表す。
- ・CSV形式の場合は項目の最大長を表す。

⑤ 内容

- ・設定する項目の内容を表す。

⑥ 必須入力

- ・入力が必須の項目を“○”で表す。
- ・特定の条件により入力が必須となる場合は、条件のマトリックスまたは注記として表末に記述する。

⑦ 備考

- ・設定するデータの形式、コード等の特記事項を表す。

1. 4 留意事項

1. 4. 1 項目設定共通事項

(1) 「年月日」欄

- ・備考欄に“GYMMDD 形式”と記載がある年月日項目は GYMMDD 形式の半角数字で表す。
- ・年、月、日が1桁の場合は、それぞれ直前に“0”を付加して2桁にする。
- ・G は年号コードであること。

(例)

平成22年 4月 1日 の場合は、“4220401”を設定する。

(2) 「年月」欄

- ・備考欄に“GYMM 形式”と記載がある年月項目は GYMM 形式の半角数字で表す。
 - ・年、月が1桁の場合は、直前に“0”を付加して2桁にする。
 - ・G は年号コードであること。
- ※注意 コントロールレコードの処理対象年月は年月を西暦4桁、月2桁の半角数字で表す。

(例)

平成22年 4月の場合は、“42204”を設定する。

(3) 「年度」欄

- ・備考欄に“GYY 形式”と記載がある年度項目は GYY 形式の半角数字で表す。
- ・年度が1桁の場合は、直前に“0”を付加して2桁にする。
- ・G は年号コードであること。

(例)

平成22年度の場合は、“422”を設定する。